

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

認定 特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
<http://amda.or.jp/>
 認定 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
<http://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
<http://amda-amic.com/>
 AMDA 兵庫
http://www.amdainternational.com/amda_hyogo/

2016年4月25日 VOL.39 第277号 定価550円
 発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail:member@amda.or.jp
 郵便振替:01250-2-40709 口座名:特定非営利活動法人アムダ

2016年
春号

春

救える命があればどこへでも

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第8回 AMDA 本部事務局を支える人たち

今回は AMDA 本部事務局を支えてくださっているボランティアの方々にお話を伺いました。本部事務局は、ボランティアの方々を支えられて活動ができています。紙面の都合上ご紹介に限りがありますが、東京女子大学 OG グループの皆様も多年にわたりご協力いただいています。本部の今があるのは、これからご紹介する方々を始めとした多くのボランティアの方々のおかげです。

井口恵子さん

平成2年に定年退職した直後より AMDA でボランティアを始めてもう25年が過ぎました。

妹が菅波先生の患者でした。破れた運動靴をはいて病院設立に頑張っていた菅波先生の感じが良かったので、手伝ってといわれた妹が手伝うようになり、次第に自分も亡き夫とともに AMDA を手伝うようになりました。その頃、阪神淡路大震災、サハリンの大地震、インド西部大地震と様々な災害に見舞われる中、若い人達が実によく活躍していました。当時、まだボランティアというのは珍しかったので、NHKは軽四の車に AMDA のシールをはってボランティアをする私たち夫婦の事を取材していました。その放映の日はまさに阪神淡路大震災が発生した日でした。朝8時半から夜10時まで3か月間、菅波医院で必死に救援活動にあたりました。いつ食事をとっていたか、今でも思い出せません。菅波医院の裏で大きなお釜で地域の人たちも含め、皆でお米を炊いておにぎりを持っていったこと、そして、コンビニのおにぎりの方が良いと断られたことで「見えない真心」を渡す難しさも知りました。

1995年6月 AMDA の広報誌の表紙の写真は私が撮ったものです。多くの方が手探りで AMDA を支えていた時期、一緒に AMDA の礎を築いてきた人たちの顔が今も鮮やかに蘇ります。これが私の自負するところでもあり、人生の宝でもあります。

黒瀬美砂子さん・田中啓子さん



右が黒瀬さん
左が田中さん

AMDA でボランティアを始めてそれぞれ20年と17年になります。

阪神淡路大震災が起こり、その時は何もできず、自分も人の為になんかしたいという気持ちが強くなりました。そこで AMDA のことを知り、週に一度来て書類整理や発送準備をしていました。初期の頃は AMDA からの発刊物を発送する際にも、封筒に手書きで住所を書いていました。また5年前東日本大震災が発生した時に、薬局に色々な物資購入のために奔走しました。お店の方々がとても協力的で、最後にマスクを2箱いただいたことが印象に残っています。

私たちは菅波代表の提唱する理念に共鳴し、尊敬しています。AMDA の仲間として活動できてうれしいです。

清輔幸子さん・水田陽子さん

20年以上前に、AMDA で職員として働いていました。そして子育てが一段落した約15年前からボランティアとして、領収書発送などの作業を担当しております。AMDA でボランティアとして働き、社会との繋がりを感じられ、生活にハリが出ています。また、共に AMDA を支えるボランティアスタッフの仲間たちとお会いすることも楽しみの一つとなっています。これからも AMDA を支えていきたいと思っています。

シニアボランティアグループ



左から山本さん、矢部さん、丸山さん、ボランティアセンター長の小池、長門さん、村野さん、岡本さん

仕事を退職した後、平成18年に菅波代表から「AMDA 設立25周年記念資料室」の準備室長にグループの一員である村野さんが任命され、それに伴って発足したグループです。AMDA25周年に向け、AMDA を支えてくださっている方々へ感謝の取り組みをするため、過去の資料を全てさかのぼり名簿を作成しました。こちらは、2014年のAMDA30周年祝賀会でも大いに活用されました。また、今も AMDA の長い歴史資料の整理を続けています。

同時に、教育への貢献ということで、子どもたちの日本の国際協力への理解を深める取り組みをしています。その関係で、AMDA のサテライト室を小・中・公民館・郵便局に造る試みを始め、AMDA ニュースを作成するようになりました。現在も作成を続けており、配り先は今では100か所以上にのぼります。活動を続けていくうちに、現在のメンバーが揃い、メンバー一同で AMDA を支えるべく活動をしています。

もともと地域貢献をモットーに仕事をしていたので、第2の人生のライフワークとして AMDA で継続して地域のためと思いつき活動しています。

※グループの一員である村野さんは1993年から AMDA の国際人道支援活動の展開の基となった郵政省の「国際ボランティア貯金」制度の地元窓口郵便局長としてご協力いただいていた。

国際医療協力



井口さん撮影の1995年 AMDA 広報誌表紙

フィリピン台風 27 号被災者に対する緊急支援活動

2015 年 12 月 14 日にフィリピン中部・サマル島北サマル (Northern Samar) 州ラオアン (Laoang) に最初に上陸した台風 27 号 (現地名: Nona) は、フィリピンの広範囲に大雨・暴風をもたらしました。

AMDA は、フィリピンボホール地震とフィリピン台風 30 号に対する緊急救援と一緒に活動したフィリピン海軍予備役大尉であるメルカド氏からの要請により支援活動の実施を決定。12 月 20 日には看護師 1 名を派遣しました。AMDA 看護師はマニラに到着後、被災地からの最新情報に基づき、支援内容について協議を行った後、北サマル州に移動、活動を開始しました。

23 日と 24 日の 2 日間、地元の協力者とともに被災地のビクトリア町



16 のバランガイ (地区) で物資支援を行いました。続いて支援に入った町内のバランガイのひとつであるゾーン 1 (Zone 1) にて医療支援活動と炊き出しの実施を決定。28 日に山間部を含めた町内の被災地に支援の実施を知らせる呼びかけを行った後、翌 29 日同地区で医療支援活動、炊き出し、物資支援を行いました。診療にはフィリピン人医師 2 名、看護師 1 名、現地の協力者 10

名と AMDA 看護師 1 名があたり、無料診療を受けた患者は 355 名。

診療にあたった医師によると、上気道感染、尿路感染の患者が多く、下痢の子どもや、高血圧症や糖尿病の高齢者もいました。物資支援としてはサンダル、ブランケット、おもちゃなどを診療を受けた患者に配布しました。炊き出しでは「チキン粥」を提供し、受け取った被災者はそのおいしさに安堵する表情を浮かべていました。

この台風 27 号による死者は 42 名、負傷者 24 名、行方不明者 4 名。フィリピン全土で 74 万人以上が事前避難し 332 の地域で洪水が発生して被災者は約 28 万人、被災家屋は 246,780 棟 (全壊 88,118 棟)。

■日本からの派遣/岩本智子 看護師 (米国資格)

台湾南部地震被災者に対する緊急支援活動

今年 2 月 6 日午前 3 時 57 分に台湾南部でマグニチュード 6.6 の大地震が発生。この地震によって台南市最大震度 7 級を記録した強い揺れを観測。115 人が死亡しました。AMDA は、職員を台南市へ派遣し 3 月 10 日台南市政府社会局へ義捐金を届けました。

台南市政府社会局の方によると地震発生直後には水が停まり、不便を強い

られたそうですが、台南市政府が 2 月 8 日に立ち上げた防災対策本部の迅速な働きもあり、4 週間で元に戻ったそうです。

日本から東日本大震災の返礼の気持で、義捐金を届けに来たことをお伝えすると、多くの日本人からの共感に、感謝のお言葉をいただきました。



■日本からの派遣/成田奈美 調整員

AMDA ピースクリニック 包括的プライマリ・ヘルスケア

◎ AMDA ピースクリニックとは? … AMDA ピースクリニック (APC) は 2009 年にインドで最貧といわれるビハール州のブダガヤに開院し、ヘルスケアと生活支援を行っています。長期にわたってブダガヤでプロジェクトを行う中で、単なる健康支援ではなく包括的プライマリ・ヘルスケア (PHC) の必要性が明らかになりました。結果として AMDA は包括的プライマリ・ヘルスケアの実現に向けて、2014 年から母子保健事業、2015 年からは歯科検診とマイクロファイナンス事業を実施しています。

妊婦健診



母子保健事業の主な目的は重要かつ命を守る情報を提供し、地域の妊婦と胎児の健康管理、特に妊婦の栄養摂取の改善支援を行うことです。APC の看護師は妊婦の状態の確認とアドバイスをするために毎日各家庭を訪問。2 ヶ月に 1 回、産婦人科医が APC にて妊婦健診を定期的に行っており、1 回につき約 28 人の妊婦が訪れます。

歯科検診



この地域での口腔衛生に関する意識はほぼ無に等しく、子どもたちの口腔環境を鑑み、AMDA は APC の活動に無料歯科検診事業を加えることを決定。毎月 1 回歯科医による歯科検診を実施、約 20 ~ 25 人の患者が検診に訪れます。並行して、APC の看護師による口腔衛生を含む健康教育を行っています。

マイクロファイナンス事業



2015 年から生活環境を改善するために APC はマイクロファイナンス事業を実施しています。乳牛の購入や売店経営、野菜や果物販売、電気タクシーの営業を開始しました。

また学生がパソコンを購入するため等の初期費用を貸し出すことで地域の経済活動の促進を目指しています。

◎「ルワンダの教育を考える会」理事長 マリールイズさんと AMDA

1994年ルワンダで3か月間に100万人近い人が犠牲となった内戦が勃発し、AMDAは難民キャンプで緊急医療支援活動を開始。当時、隣国ザイールの難民キャンプまでお子さんと命からがら逃げ切ったマリールイズさんと偶然出会い、日本語が堪能な彼女に通訳をお願いしました。そこがAMDAとマリールイズさんとの絆の出発点となりました。

マリールイズさんは、同年12月に家族と来日しました。そして母国に欠けていたのは「教育」だったことを痛感し、日本で「ルワンダの教育を考える会」を立ち上げました。そんな彼女とAMDAが再び手を取り共に活動しています。



児童を診るカリオペ医師

マリールイズさんは、ルワンダの首都キガリでウムチョムイーザ学園（幼稚園と小学校を併設、児童数235名）を設立し、子供たちの健康を守るために学校保健の包括的事業（学校給食、保健室、学校健診）の導入に取り組んでいます。AMDAは、マリールイズさんとともに学校集団検診に携わっているルワンダのカリオペ医師の来日研修を計画しました。岡山県国際貢献ローカル・トゥー・ローカル技術移転事業の下、2015年8月から10月末までの2ヶ月間、来岡したカリオペ医師は、各医療、行政、教育機関で学校保健、集団健診、専門的小児医療など多岐にわたる研修を熱心に受け



マリールイズさん（右）、カリオペ医師（中央）

てルワンダに帰国しました。現在、カリオペ医師は、母国の行政機関に学校健診の必要性を訴え、同校での検診に取り組んでいます。AMDAは、世界平和パートナーシップ構想の健康増進分野の一環として、マリールイズさんとともに、ルワンダの発展のために学校保健教育の普及に尽力していきます。

AMDA 東日本国際奨学金

東日本のこれからの復興を担う世代の支援として「AMDA東日本国際奨学金」を2011年度から支給しています。これは将来医療従事者をめざす被災地の学生を対象に年間18万円（15,000円/月）を支給するもので、返済の必要はありません。宮城県にお住まいの高校2年生の方からお便りが届きましたのでご紹介します。

私の将来の夢は看護師です。東日本大震災の日、私はまだ小学生で不安な気持ちと寒さから熱を出してしまいました。その時私を助けてくれたのが看護師さんでした。看護師さんには看病してもらっただけでなく不安を取り除いてもらい私にとって支えとなる存在でした。医師や看護師のみなさんが一生懸命患者さんと向き合い、必死に命をつなごうとしている姿を見て、憧れの気持ちと自分も看護師になりたいと思うようになりました。

私は、夏休み中に看護師の体験をしました。患者さんの不安な様子を間近で見ると私はその不安を少しでも減らし、心を癒せるような看護師になりたいと思いました。私は、将来患者さんの心と身体のケアをできる看護師になりたいと思います。そのためにも学校生活の中で自分自身ができることをしっかりと行い、当たり前なことを当たり前に行える人になりたいです。

（宮城県高校2年生）

バングラデシュでのスタディツアー

2011年春に開催したバングラデシュプロジェクトへのスタディツアーに参加され、当時高校2年生でこの春から看護師になる大前さんからお便りが届きましたのでご紹介します。バングラデシュのスタディツアーでは同世代学生宅にホームステイし、また現地の子どもたちと交流し、多くのことを感じ学ばれたようです。

私は高校2年（2011年）の春休みに、父の勧めでバングラデシュのスタディツアーに参加しました。それまでは、何となく医療関係の仕事に就きたいと考えていましたが、バングラデシュの医療現場を訪問し、医療の重要性を学び、現地の子供たちと触れ合う中で、看護師への興味が高まりました。大学受験は看護学部を志望し、福井県立大学看護福祉学部看護学科に進学しました。この3月に大学を卒業し、看護師と保健師の国家試験に無事合格しました。4月からは、神戸医療産業都市に移転が決まっている兵庫県立こども病院に看護師として就職することとなりました。日々精進して、患者さんやその家族の方々の支えになるように頑張ります。そして、いつか開発途上国などでその経験を生かす仕事ができればと考えています。

（大前結香）



佐野俊二教授 フィリピン・グシ平和賞とベトナム保健大臣表彰受賞祝賀会



岡山県とAMDAが主催する「国際医療貢献フォーラム」の代表世話人で、「世界の佐野」と呼ばれる岡山大学大学院医歯薬学総合研究科心臓血管外科教授の佐野俊二教授が、多年にわたるアジアへの専門医療支援のご功績により「フィリピン・グシ平和賞」と「ベトナム保健大臣表彰」を受賞され、2月7日、心臓血管外科祝賀会事務局によりANAクラウンプラザホテル岡山にて盛大なそして心温まる祝賀会が開かれました。

← 佐野教授ご夫妻

東日本大震災から5年を迎えて

東日本大震災支援活動… 2011年3月11日にマグニチュード9.0の地震が発生し、大津波による甚大な被害をもたらした東日本大震災から5年が経過しました。AMDAは、災害発生の一報を受け、直ちに緊急救援を決定。翌12日には、宮城県仙台市内の被災地に入り活動を開始しました。緊急医療支援活動として4月末までにのべ149名を派遣しました。その後途切れることなく第一次3か年復興支援活動を、2014年4月からは第二次3か年復興支援として、事業を継続し行っています。

○AMDA 大槌健康サポートセンター…

2011年11月に岩手県大槌町で開所した、AMDA 大槌健康サポートセンターでは、地域スタッフが中心となり地域住民の心身の健康、食生活の改善、子育て支援、運動促進などに着目した「教室」や「イベント」を行っています。今年度のセンター利用者総数は2月末で延べ1326人となりました。活動の様子を一部紹介いたします。



ママスマイルひろば

●鍼灸事業

AMDA 大槌健康サポートセンター内にある鍼灸院は地元在住の佐々木賀奈子鍼灸師によって運営されています。現在、町内は復興工事で大型車などが多く、高齢者にとって通院が困難なため、患者さんのご自宅での往診治療のニーズも高まっています。町外避難者の住む県内内陸部への往診や独居の仮設住まい高齢者訪問も行い、治療をしながら患者さんに現在の町の様子なども伝えています。



*7月8日第3回災害鍼灸チーム育成プログラム 開催決定!

災害時に避難所での鍼灸治療の効果が注目され、ニーズが高まっています。大槌で活躍している佐々木鍼灸師も講師として参加します。詳しくはAMDA事務局(086-252-7700)まで。

募集対象: 鍼灸師をめざす学生 および 鍼灸師定員30名

参加費用: 3,000円

(宿泊費、交通費などの諸経費は自己負担)

応募期間: 2016年6月15日まで

(定員になり次第、募集を締め切ります。)

開催場所: 岡山国際交流センター5階

●コミュニティ形成事業

ママスマイルひろば

復興工事の関係で、安心・安全な遊び場が少なく、行き場を失っている母親と子どもたちのために、地域の集会所でキッズスペースを作り、子育て世代が気軽に立ち寄れる「居場所」の提供を行いました。子育てにおける相談窓口や母親たちの集いの場も少ない中で、母親同士の情報交換・交流の場にもなっています。

天然酵母パンスクール・パンプレートスクール

2012年に講師養成講座を開催。現在ではその講座を受講した町民が講師となり、活動しています。フライパンとポリ袋で作る方法は、狭い仮設住宅のキッチンでも取り組みやすいため参加者の方からも喜ばれます。

仮設団地支援

山間部に位置している仮設住宅の住民は、買い物など町へ出る移動手段は車かバスになり、部屋の中も狭い上、日常の運動量が減ってしまいがちです。そこで、住民の運動不足解消・コミュニティ

の構築・閉じこもり防止のため、各仮設住宅団地の集会所・談話室で健康体操教室を実施しています。体操のあとの「お茶っこタイム」では、震災当時の話題も度々あがり、住民同士で気持ちを共有できる大切な時間になっています。

チャレンジショップ

コミュニティスペースの一角に得意なことを活かして挑戦する場として「チャレンジショップ」というレンタルスペースを設けています。チャレンジショップを通じて、出店者の方々の個人の収益、意欲形成にもつながっています。

女性のためのヨガスクール

町内でも人口減少や少子化が深刻化している中、若者がいきいきと活動できる場の不足が問題視されています。そこで比較的若い層の女性を対象として、女性の心身の健康などにも効果のあるヨガの講座を行っています。いつも忙しい日常生活の中で、自分ではない「誰かのため」に頑張りがちな女性たちが、一度立ち止まって自分の心と身体の声にゆっくり耳を傾けるための場になっています。

復興グルメF-1大会

被災地間を繋ぐことにより情報や知恵を共有し復興への新たな取り組みにつなげることを目的として、岩手県の大槌町と宮城県気仙沼市の仮設商店街の交流から始まりました。その後、岩手・宮城・福島県の3県にまたがり、15もの仮設商店街が参加する「復興グルメF-1大会」は、同大会実行運営委員会主催として2016年3月までに計11回開催されています。

4月16日に第12回復興グルメF-1大会が福島県南相馬市で開催されます。AMDAからもボランティアバスを出し、多くのボランティアの方々に活躍いただきます。

第10回F-1の様子



被災地を「食」で支える

被災地で、震災後やむを得ず路上で生活をする方がいます。AMDAは2013年度から被災地を「食」で支えようと、現地にお米を送る活動を続けています。

AMDAの呼びかけにご賛同いただいた、個人農家や農業高校を「AMDA支援農場」に認定し、現在は県内の67個人・団体が活動しています。2013年度の開始以降、送付量は3700キロ以上です。

ら4月12日まで街頭募金を連日実施していただきました。

(注) RNN様は、岡山県内の宗教者が宗旨・宗派・宗教の枠を超えて人道支援活動を行う団体です。

東日本大震災5周年 RNN 慰霊祭

震災から5年が経過した今年3月11日、地震発生と同時にRNN(人道援助宗教NGOネットワーク)による慰霊祭が岡山市北区の神道山黒住教日拝所

にて行われ、AMDAから理事長はじめ5名の本部職員が参加しました。

当日は参列者一同による黙とう、そしてRNNメンバー有志による慰霊と復興の祈りが捧げられました。RNNの皆さまには、地震発生直後の3月13日か

ネパール中部地震から1年を迎えて

ネパール地震支援活動…2015年4月25日にマグニチュード7.8の大地震がネパール中部を襲い、各地に甚大な被害をもたらしました。また、5月12日にはマグニチュード7.3の余震が発生し、被害が拡大しました。AMDA 本部では、4月25日の災害発生の一報を受け、日本から医療チームを派遣。現地でAMDA ネパールの医療チームと合流し、医療支援活動を開始しました。AMDA は継続的な復興支援活動が必要と考え、緊急救援活動が終了した翌日5月26日から、復興支援活動を継続しています。

心理カウンセリングボランティア養成課程

震災後のネパールにおいて、心理カウンセリングを行える人材が不足しており、被災者に対する精神医療が行き届いていない状況がありました。AMDA は日本医師会、ネパール医師会と合同で心理カウンセリングを行うボランティアの養成講

座を2015年6月から計10か所で実施しました。参加者は専門知識の講義やカウンセリングの実践授業を受け、技術を習得しました。約380名の履修者は各々の出身地で心理カウンセリングボランティアとして活動しています。



トリバン大学教育病院 (TUTH) ・AMDA 合同健康支援事業プログラム

今回発生した地震は、都市部以外にも多くの地域が被災しました。特に山間部の被災地に被害が大きく、医療支援が行き届かない状況がありました。そこで、AMDA はトリバン大学教育病院(TUTH)の災害医療支援委員会(ODMC)と合同でアウトリーチ・クリニックプロジェクト(訪問診療)として、シンドウパルチョク郡を中心にTUTHの医療チームを派遣し、無料巡回診療を実施。シンドウパルチョク郡病院は地震後使用できない状況にあ

るため、病院敷地内屋外の仮設診療所で診察、治療を行っています。郡で唯一の病院のため、歩いて何日もかけて診察に来る患者も多く、地震発生後、患者数は圧倒的に増え医療従事者が不足。そのためTUTHから医師、看護師、臨床心理士などの医療従事者が1チーム1週間交代で、郡病院に滞在し、医療活動を継続しています。また、病院を訪れるのが難しい地域にある村々を訪れ、診療や衛生教育なども行っています。



車椅子製造支援

地震の影響で負傷し、一命は取り留めたものの障がいを抱えた人々が数多くいます。しかし、医療機関やリハビリセンターの退院後の受け皿となる自宅は倒壊したり、バリアの多い環境にあるため、自立した生活を送ることが難しい状況にあります。AMDA は震災によって負傷し障がいを持った方々に対する支援を2015年7月から継続しています。



理学療法士の西嶋望さん(左)

ネパール在住の日本人理学療法士が現地で車椅子製造技術の研修を行い、製造した車椅子や補助具を必要としている方に提供しています。障がいを持つことによって家から出る機会を失ってしまった被災者が生活を行う上で必要な物資の提供及びカウンセリングを行っています。車椅子の提供を受けた方は、台所で洗いをしたり、トイレに行くことができるようになり笑顔も増えてきています。

ネパールTV局の日本での研修



ネパールでは今回80年ぶりの大地震となり、震災時の対応や防災知識・対策の不十分さが浮き彫りとなりました。岡山の山陽放送の協力によりネパールのTV局イメージチャンネルのクルーが日本を訪問し、「日本の防災と復興」と「災害時のメディアの役割」について学びました。帰国してすぐに、日本で学んだことを社内のスタッフたちに共有するため、「報道人としての防災認識を高める」講義を開

催しました。日本における防災に対する人々の取り組みなどを紹介し、防災訓練や準備の必要性を話し合いました。一刻も早く、今後の災害に備えて放送局内での防災訓練や準備を始めることを決定しました。また、来日したスタッフを中心に、防災に関する番組をシリーズで作成し、ネパール放送業界の重鎮らとともにネパール国民の防災知識啓発に努めています。(写真はその番組の1コマ)

日本医師会、東京大学、AMDA 合同プロジェクト

AMDA は、日本医師会と合同で、東京大学とグリーン・タラ・ネパールが主となり、ネパール大地震被災者に対する心理社会的支援に着目した復興支援活動を行っています。詳しくは、AMDA ホームページをご覧ください。

(http://amda.or.jp/articlelist/?work_id=4932)

今求められているもの

ネパール中部地震が発生し、一年がたちますが、まだ家屋の再建が順調に進んでいるといえる状況ではなく、雨期の寒さにも耐えてテントの中で生活する方も数多くいます。このような状況の中で震災の不安を抱え、心理的な面から生活に支障をきたす方が今もあり、心理カウンセリングや訪問診療が必要な状況が続い

ています。障がい者にとって生きがいとなるような活動(例えば、スポーツなど)が必要で、「器具」「サポート」「機会」を提供することも大切です。

AMDA は今後も引き続きこれらのプロジェクトを継続するとともに、AMDA ネパールと連携しながらニーズに合った適切な活動を展開してまいります。

2016年1月～3月の動き

〈講演〉	内容	主催
1月16日	健康と教育セミナー「AMDA 設立までの生い立ちや設立について」	朝日レディー健康と教育セミナー 倉敷市立精思高等学校 玉野ロータリークラブ 岡山県立総社南高等学校 岡山県赤磐市立豊田小学校 おかやまコープ備北エリアアースラブプロジェクト 関西創価高等学校 真庭市立久世中学校 岡山市立石井小学校 備前市立日生中学校 福岡県・福岡市立長尾小学校 岡山県立岡山大安寺中等教育学校
1月27日	国際理解ロングホーム「国際情勢とAMDAの国際貢献活動について」	
2月12日	玉野ロータリークラブ例会 卓話「紛争地域における医療の現状」	
2月13日	1年生国際系選択者対象国際理解講演会「AMDAの活動内容など」	
2月15日	総合的な学習の時間「異文化交流」	
2月18日	にじ色カフェ 東日本大震災復興支援「AMDAについて」	
2月23日	University Partnership Class「AMDAの活動内容・活動理念について」	
2月25日	いのちの講演会「命の大切さについて」	
2月26日	国際貢献～今、自分たちにできること～「世界の状況とそのために自分たちに何ができるか」	
3月3日	教育講演会「混沌とした社会において世界が必要としているものについて」	
3月10日	「国際医療支援の話」	
3月16日	DAIANJI PROJECT「海外支援やボランティア活動について」	
〈大学等講義〉	内容	
1月12日	国際看護	旭川荘厚生専門学校
2月25日・26日, 3月8日・9日	国際関係論	福山市医師会看護専門学校
〈イベント開催および参加、協力〉	内容	
1月10日	2016年岡山市新成人の集い(成人式)(主催:同実行委員会)(アムダパネル展示・募金活動)	
2月6日	ワン・ワールド・フェスティバル(主催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会)	
2月15日～3月18日	防災意識高揚のためのパネル展示(主催:広島県神辺公民館)(アムダパネル展示)	
2月21日	倉敷アカデミックウインズ第24回定期演奏会(主催:同実行委員会)(アムダパネル展示・募金活動)	
2月24日～28日	第59回洋蘭展 咲かせよう美しい花、みんなの夢～AMDAとともに(主催:岡山県洋蘭協会)(アムダパネル展示)	
2月25日～26日、29日	2016年岡山市新成人の集い(成人式)を振り返るパネル展示(主催:同実行委員会)(アムダパネル展示・募金活動)	
3月5日	備前焼作家による東日本復興支援チャリティー～from bizen(主催:備前焼の会)	
3月5日、6日	絆チャリティーライブ(主催:絆チャリティーライブ実行委員会)	
3月7日～4月1日	アムダの活動を幅広く紹介するパネル展示(主催:三井住友信託銀行岡山支店-岡山中央支店)(アムダパネル展示)	
3月8日～13日	倉敷からの風(主催:倉敷からの風実行委員会)(アムダパネル展示)	
3月23日	岡山市防災会議(主催:岡山市)	
〈AMDA 中学高校生会活動〉		
2016/1/31,2/14,3/13	中学高校生会 定例会	
〈園児・学生本部訪問〉		
2月24日	朝日塾幼稚園	
3月4日	2016年新成人の集い実行委員会	

事務局よりお知らせとお願い

※多くの皆様からのご寄付、本当にありがとうございます。お名前の記載の誤りなどがございましたら、恐れ入りますが事務局までお知らせください。



※書き損じハガキ、未使用切手を集めております。通信費の節約に役立たせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。

AMDA フードプログラム

◎ AMDA フードプログラム …「食は命の源」をコンセプトにアジアに有機農業を普及することを目的とし、2011年に始めたプログラムです。

マリノ村での活動

AMDA フードプログラムでは現地農家の生活向上や生産量増加のため、インドネシア、南スラウェシ州ゴワ県マリノ村バトゥラピシ地区にて有機農業普及プロジェクトを実施しています。バトゥラピシ地区は高地に位置し、その多くが面積の小さい棚田であるため大きなトラクターは入れず、人力または牛を使って耕しているところも多くあります。不利な土地条件のために生産性が低く、いまだに経済的に貧しく学校に通えない子どもや病気になっても病院に行けない人たちがいます。換金作物としてトマトを作っていますが、トマトは農薬をたくさん使うため農家の健康も心配されています。

そこで AMDA は 2013 年にはマリノ村から有機農業の研修生 2 名を AMDA 野土路農場(岡山県真庭郡新庄村)に招へい。研修を終えた 2 名を中心に、2013 年に AMDA 有機農業の実践圃場をマリノに開所。その後 AMDA 本部職員が計 5



苗の生育状態のチェックをしている AMDA 職員田中回マリノ村に赴き、フォローアップ研修を継続しています。2015 年には有機栽培米を通常の 3 倍の値段で販売することができ農家に大変喜ばれました。

今回は、今年 2 月 2 日から 5 日にかけて職員が再びマリノ村を訪問、プロジェクトのモニタリングを行いました。その結果今年には新たに 6 名の農家が有機栽培に挑戦したいという希望を持っていることが分かり、この 6 名の農家を対象に肥料についてアドバイスをを行ったほか水田の測量を行いました。マリノで有機農業に取り組む農家は少しずつ増えつつあります。この活動の広がり、生活向上だ



AMDA マリノ農場スタッフのイカさん(右から 2 番目)とジャマルさん(左)



手入れされた段々畑

けでなくインドネシアの自然環境を守ることもつながるはずで。

AMDA はこれからも支援活動を続けていきます。

一般社団法人 岡山経済同友会と協定書調印

3 月 24 日 岡山国際ホテルにて、一般社団法人岡山経済同友会と AMDA の協定調印式と記者会見が執り行われました。

将来起こりうる南海トラフ地震に向けて、岡山の地元企業の方々と輸送や物資調達など協力関係を確立させ、万一発災した際にすぐに対応できるようにするためです。当日 AMDA グループ代表の菅波から、7 月 9 日に岡山で開催する第 3 回南海トラフ地震対応プラットフォーム調整会議までに岡山経済同友会との具体的な協議を進め、大体の枠組みをつくり、いつでも対応可能な状態にしていきたいこと、また、南海トラフ地震が発生した際には、岡山から世界に向けて情報発信することが大切であるため、国際ネットワーク構築も同時に行いたい旨も会場の皆様にお知らせしました。



代表幹事の萩原邦章様(右)、松田久様(左)と

7 月 9 日(土) 第 3 回 AMDA 南海トラフ地震対応プラットフォーム調整会議開催決定

発生が予測されている南海トラフ地震に向けて、AMDA では、関連する自治体や医療機関など関係者が集い迅速な医療支援を行うため「AMDA 南海トラフ地震対応プラットフォーム」を立ち上げました。昨年 11 月には「輸送と通信のシミュレーション」を実施し、医療チームの派遣ルートを検証しました。今回の会議では、「派遣協力医療機関の紹介」「各避難場所の準備状況」「医療機関と避難所のマッチング」、また昨年実施した「輸送と通信のシミュレーション」の報告などを行います。詳しくは、AMDA 事務局(086-252-7700)までお問い合わせください。

日時: 2016年7月9日(土)
13:00 ~ (受付 12:30 ~)
会場: 国際交流センター 8F イベントホール
(岡山市北区奉還町2丁目2番1号)

参加費: 無料

※お席に限りがございますので、事前のお申し込みをお願いいたします。

多くの方々からご寄付をいただきました。一部を紹介します。



中野コロタイプ様



そねざきロータリー様



廣榮堂様



倉敷アカデミックウインズ様